

6-3-2 設計例2「田」→「駐車場」(阻害行為面積1000㎡以上、集水区域2、貯留施設のみ)

6-3-2 設計例2「田」→「駐車場」(阻害行為面積1000㎡以上、集水区域2、貯留施設のみ)

条件：市街化調整区域。実測面積 A=1000.00㎡。  
行為前：地目：農地。実際の土地利用：田。  
行為後：地目：雑種地。工事後の用途：駐車場。  
対策施設：貯留施設(表面貯留)。

条件：市街化調整区域。実測面積 A=1000.00㎡。  
行為前：地目：農地。実際の土地利用：田。  
行為後：地目：雑種地。工事後の用途：駐車場。  
対策施設：貯留施設(表面貯留)。

行為前



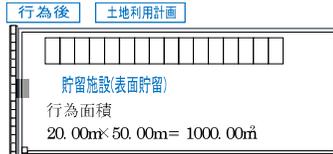
土地利用	流出係数	面積
田・畑	0.2	1000.00㎡

行為前



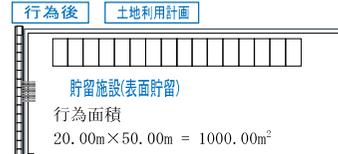
土地利用	流出係数	面積
田・畑	0.2	1000.00㎡

行為後



土地利用	流出係数	面積
池・沼	1.00	990.00㎡
舗装	0.95	10.00㎡

行為後

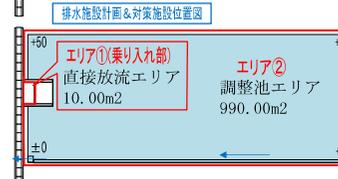


土地利用	流出係数	面積
池・沼	1.00	990.00㎡
舗装	0.95	10.00㎡



エリア①直接放流エリア(舗装)  
2.00m x 5.00m = 10.00㎡  
エリア②調整池エリア(池・沼)  
1000.00 - 10.00 = 990.00㎡

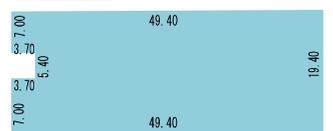
※阻害行為面積1000㎡以上は、必ず集水区域に分割する。  
今回は、対策施設(調整池)に雨水が入るエリアと入らないエリアに分割。



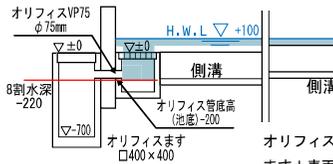
エリア①直接放流エリア(舗装)  
2.00m x 5.00m = 10.00㎡  
エリア②調整池エリア(池・沼)  
1000.00 - 10.00 = 990.00㎡

※阻害行為面積1000㎡以上は、必ず集水区域に分割する。  
今回は、対策施設(調整池)に雨水が入るエリアと入らないエリアに分割。

対策施設 貯留施設(表面貯留)



貯留施設(表面貯留)面積  
49.40m x 19.40m - 3.70m x 5.40m = 938.38㎡  
設計計上 930㎡  
※施工誤差を考慮し少なめに計上。

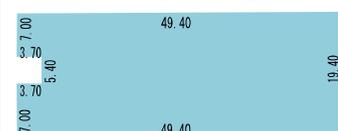


オリフィス V = 0.400 x 0.400 x 0.250 = 0.04m³  
ます+表面貯留 V = 0.04m³ + 930.00m² x 0.050 = 46.54m³

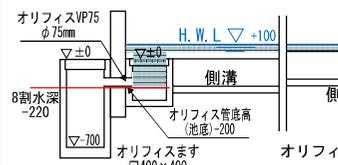
※駐車場地盤の傾斜分は、施工誤差を考慮し調整池容量として計上しなかった。

集水区域2 貯留施設のみ

対策施設 貯留施設(表面貯留)



貯留施設(表面貯留)面積  
49.40m x 19.40m - 3.70m x 5.40m = 938.38㎡  
設計計上 930㎡  
※施工誤差を考慮し少なめに計上。

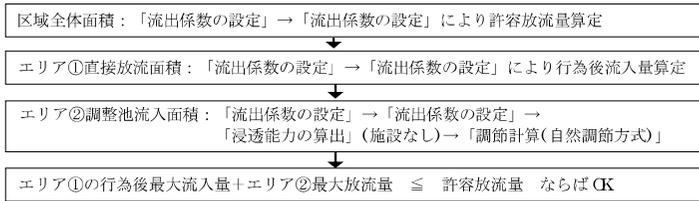


オリフィス V = 0.400 x 0.400 x 0.250 = 0.04m³  
ます+表面貯留 V = 0.04m³ + 930.00m² x 0.050 = 46.54m³

※駐車場地盤の傾斜分は、施工誤差を考慮し調整池容量として計上しなかった。

集水区域2 貯留施設のみ

(1) 設計計算の手順



(2) 区域全体

(2)-1 HPからダウンロードした様式Aの入力

(2)-2 システム「流出係数の設定」

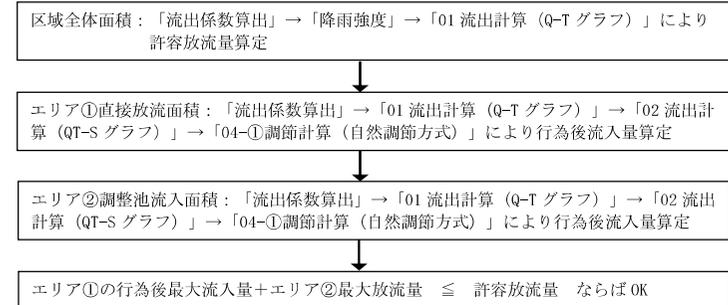


● 田→池・沼+舗装のシステムへの入力

- ① 「エクセルファイル表示」をクリック。
- ② 「流出係数(サンプル)」をクリック。「開く」ボタンをクリック。
- ③ エクセルの表に、左の列:行為前「耕地」0.1000、右の列:行為後「池沼」0.0990「不浸透」0.0010とbaで入力。名前を付けて同じ場所に保存。
- ④ 「参照」をクリック。先ほど作ったエクセルファイルをクリック。「開く」をクリック。
- ⑤ 面積が変わったのを確認。
- ⑥ 設計をクリック。
- ⑦ 「はい」をクリック。

集水区域2貯留施設のみ

(1) 設計計算の手順

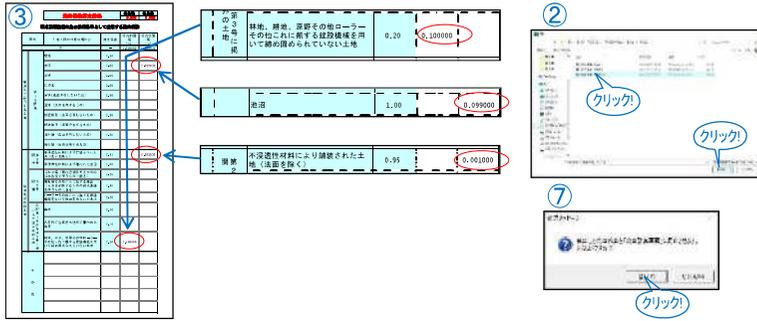


(2) 区域全体

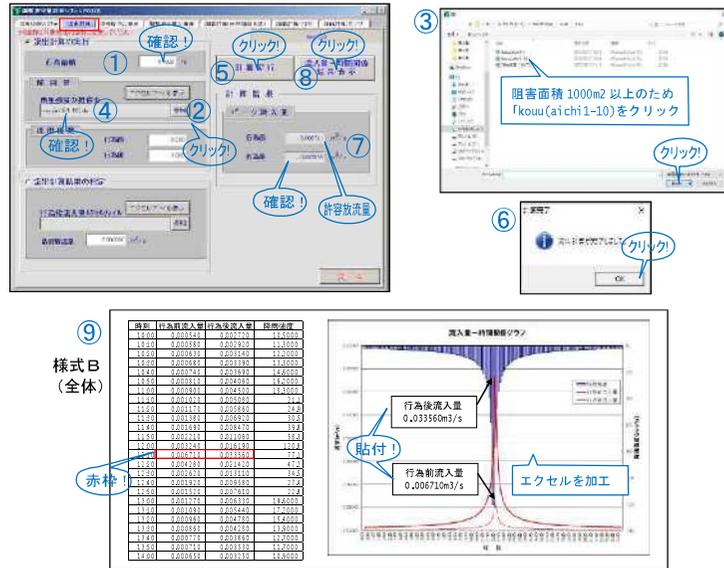
(2)-1 愛知県のHPからダウンロードした様式Aの入力

集水区域2貯留施設のみ

設計資料編  
第6章 システムを使用した設計例



(2)・3 システム「流出計算」 ●田→池・沼+舗装の行為前後の放流量の算定。様式B作成

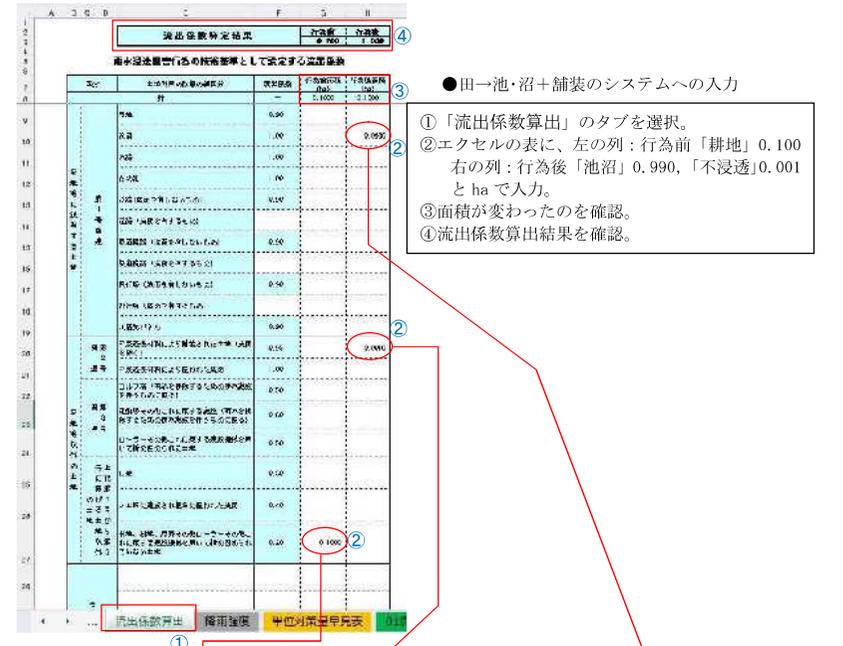


- ① 行為面積が合っているか確認
- ② 「参照」をクリック。
- ③ 阻害行為面積が500~1000㎡は「kou(ai chi 1-3)」。1000㎡以上は「kou(ai chi 1-10)」をクリック。「開く」をクリック。
- ④ 「kou(ai chi 1-10)」を確認
- ⑤ 「計算実行」をクリック。
- ⑥ 「計算完了」が出たら「OK」をクリック。
- ⑦ 行為前、行為後の流入量を確認。
- ⑧ 「流入量・時間関係」をクリック
- ⑨ エクセルファイルを加工。様式B作成。

集水区域2貯留施設のみ

設計資料編  
第6章 システムを使用した設計例

(2)・2 システム「流出係数算出」



- 田→池・沼+舗装のシステムへの入力
- ① 「流出係数算出」のタブを選択。
- ② エクセルの表に、左の列：行為前「耕地」0.100 右の列：行為後「池沼」0.990、「不浸透」0.001 と ha で入力。
- ③ 面積が変わったのを確認。
- ④ 流出係数算出結果を確認。

区分	土地利用の形態の種別	流出係数	行為前面積 (ha)	行為後面積 (ha)
計		-	0.1000	0.1000
宅地		0.90		
池沼		1.00		0.0900

区分	土地利用の形態の種別	流出係数	行為前面積 (ha)	行為後面積 (ha)
計		-	0.1000	0.1000
不浸透性材料により舗装された土地 (法面を除く)		0.90		0.010

区分	土地利用の形態の種別	流出係数	行為前面積 (ha)	行為後面積 (ha)
計		-	0.100	0.1000
耕地、棚地、原野その他ローラースの付いた種々の雑草被覆を有する種々の農耕地		0.20		0.1000

集水区域2貯留施設のみ

# 新旧対照表

旧

新

(2)-3 システム「降雨強度」

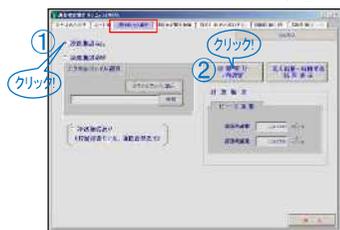
The screenshot displays a software application window with a spreadsheet-like interface. The main area contains a table with columns for time intervals (e.g., 0-10, 10-20) and corresponding rainfall intensity values. A dialog box titled '降雨強度式' (Rainfall Intensity Formula) is open on the right side, showing a list of formulas and a '計算実行' (Execute Calculation) button. A red box highlights the '降雨強度' tab in the bottom menu.

- ① 「降雨強度」のタブを選択
  - ② 阻害行為面積が1000㎡以上であるため、10年確率雨量を用いる。  
ダウンロードした10年に1回の雨「愛知県10年確率雨量.xlsx」の各時間の降雨量をコピーして貼り付ける。
- ※ 「計算実行」はクリックしない。

集水区域2貯留施設のみ

設計資料編  
第6章 システムを使用した設計例

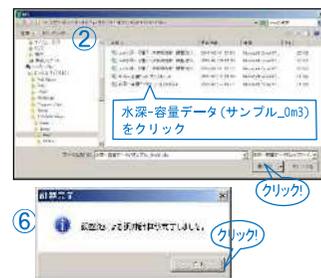
(2)・4 システム「浸透能力の算出」 ●「浸透施設なし」をクリック。「計算実行」をクリック



浸透施設がなくても、「計算実行」をクリックしてください。



(2)・5 システム「調節計算(自然調節方式)」 ●ダミーデータを入力し、様式A'を作成。



様式 A'

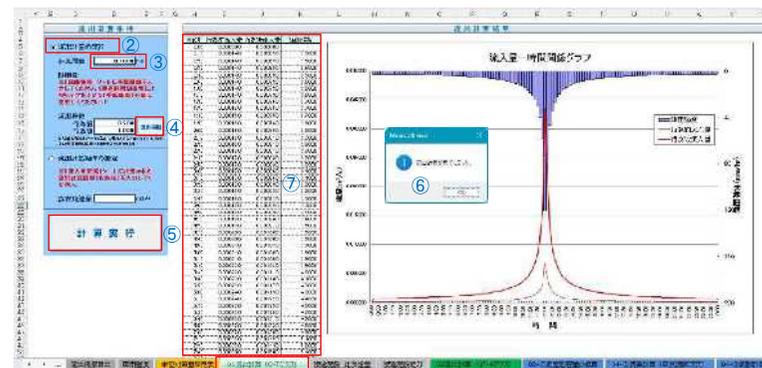
時刻	行為前流入量	行為後流入量	降間雨量
9:30	0.000450	0.002440	8.2000
9:40	0.000500	0.003300	9.2000
9:50	0.000450	0.002720	9.2000
10:00	0.000500	0.002320	10.2000
10:10	0.000500	0.003140	11.2000
10:20	0.000600	0.003290	12.2000
10:30	0.000740	0.003890	13.2000
10:40	0.000810	0.004060	14.0000
10:50	0.000900	0.004500	15.2000
11:00	0.001190	0.005390	16.2000
11:10	0.001170	0.005860	21.0000
11:20	0.001380	0.006620	24.0000
11:30	0.001190	0.006470	30.2000
11:40	0.002210	0.013960	39.0000
11:50	0.003240	0.016190	58.2000
12:00	0.006710	0.023360	120.2000
12:10	0.004260	0.014200	71.0000
12:20	0.002620	0.013110	47.2000
12:30	0.001190	0.005990	34.2000
12:40	0.001520	0.007810	27.0000
12:50	0.001270	0.006330	22.0000
13:00	0.001190	0.005450	19.2000
13:10	0.000960	0.004290	17.0000
13:20	0.000860	0.004260	15.2000
13:30	0.000770	0.003860	13.2000
13:40	0.000710	0.003530	12.0000
13:50	0.000650	0.003250	11.2000
14:00	0.000610	0.003320	10.2000
14:10	0.000570	0.003200	10.0000
14:20	0.000530	0.002840	9.2000
14:30	0.000500	0.002920	9.0000
14:40	0.000470	0.002960	8.2000
14:50	0.000450	0.002920	8.1000
15:00	0.000450	0.002100	7.2000

- 「参照」をクリック。
- 「水深-容量データ(サンプル\_0m3)」をクリック。「開く」をクリック。
- 放流口形状の「円」をクリック。
- 「直径」「管底位置」が 0.000 ならばそのまま。数値が入っていれば、0.000 に修正。
- 「計算実行」をクリック。
- 「計算完了」が出たら「OK」をクリック。
- 「総合評価」が OK。「放流量評価」の「許容放流量以下」を確認
- 「許可申請図書の表示」をクリック。
- 様式 A' を作成。

集水区域 2 貯留施設のみ

(2)・4 システム「流出計算」

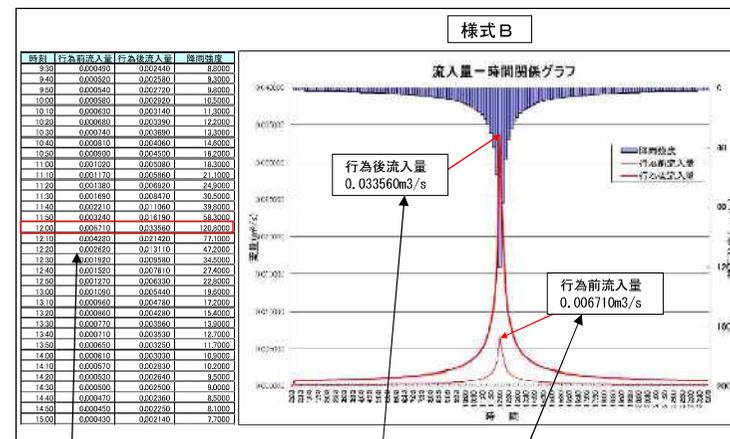
●田一池・沼+舗装の行為前後の放流量の算定。様式B作成



- 「01 流出計算(Q-T グラフ)」のタブを選択。
- 流出計算の実行に●が付いているか確認。
- 行為面積が入力されているか確認。
- 流出係数をクリック。
- 計算実行をクリック。
- 計算完了が出たら「OK」をクリック。
- 行為前、行為後の流入量を確認。行為前ピーク流入量が「許容放流量」。

様式Bの作成 (留意事項)

システムのエクセルファイルでは、オートシェイプ機能の使用やグラフの加工ができないので、画面キャプチャやデータコピーして、様式Bを作成するために別途、エクセルやワード等を用いて加工する。



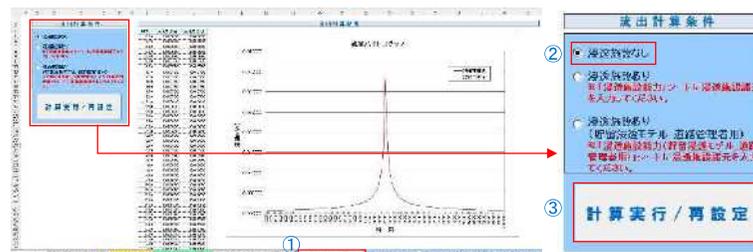
最大流入量を赤枠で囲む

行為前後の流入量の最大値を貼り付ける

集水区域 2 貯留施設のみ

(2)-5 システム「流出計算の実行」

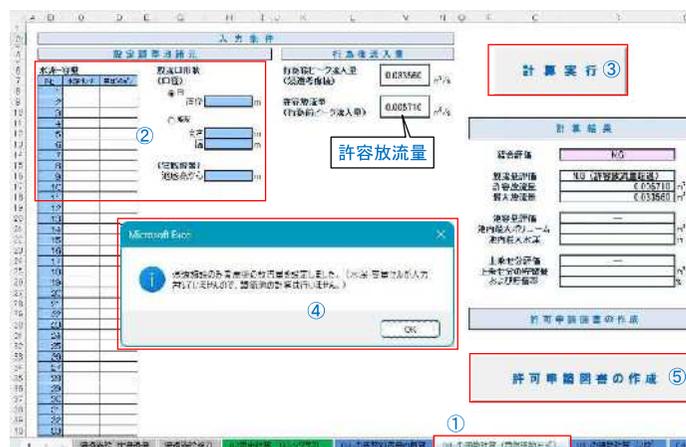
- 「浸透施設なし」をクリック。「計算実行」をクリック



- ① 「02 流出計算 (QT-S グラフ)」のタブを選択。
- ② 浸透施設なしのスイッチを押下し●にする。
- ③ 計算実行/再設定をクリック。表とグラフが表示される。

(2)-6 システム「調節計算(自然調節方式)」

- 入力条件を入力せず、計算実行し、様式A'を作成。



- ① 「04-①調節計算 (自然調節方式)」のタブを選択
- ② 「水深-容量」「放流口形状」が空欄になっていることを確認。
- ③ 「計算実行」をクリック
- ④ 「浸透施設のみ考慮後の放流量を設定しました。」が出たら「OK」をクリック。「総合評価」「放流量評価」は無視して良い。
- ⑤ 許可申請図書の作成をクリック。次ページに続く
- ⑥ 様式A'を作成する。

集水区域2貯留施設のみ

# 新旧対照表

旧

新

設計資料編  
第6章 システムを使用した設計例

⑤許可申請図書の作成をクリックすると、許可申請図書（エクセルファイル）の保存先を聞いてくるのでファイルの保存先とファイル名を指定する。



保存したファイル名（エクセル）を開き、「1. 行為区域の概要」のタブを「様式A」となる。

区分	主要材料の別名と単位	引出数量 (Tb)	消費数量 (Tb)	消費数量 (Tb)
総計		0.00	0.00	0.0000
1. 行為区域の概要				
2. 使用論強度及び統一流入量				
3. 1. 行為区域の概要				
4. 2. 使用論強度及び統一流入量				
5. 1. 行為区域の概要				
6. 2. 使用論強度及び統一流入量				
7. 1. 行為区域の概要				
8. 2. 使用論強度及び統一流入量				
9. 1. 行為区域の概要				
10. 2. 使用論強度及び統一流入量				
11. 1. 行為区域の概要				
12. 2. 使用論強度及び統一流入量				
13. 1. 行為区域の概要				
14. 2. 使用論強度及び統一流入量				
15. 1. 行為区域の概要				
16. 2. 使用論強度及び統一流入量				
17. 1. 行為区域の概要				
18. 2. 使用論強度及び統一流入量				
19. 1. 行為区域の概要				
20. 2. 使用論強度及び統一流入量				
21. 1. 行為区域の概要				
22. 2. 使用論強度及び統一流入量				
23. 1. 行為区域の概要				
24. 2. 使用論強度及び統一流入量				
25. 1. 行為区域の概要				
26. 2. 使用論強度及び統一流入量				
27. 1. 行為区域の概要				
28. 2. 使用論強度及び統一流入量				
29. 1. 行為区域の概要				
30. 2. 使用論強度及び統一流入量				
31. 1. 行為区域の概要				
32. 2. 使用論強度及び統一流入量				
33. 1. 行為区域の概要				
34. 2. 使用論強度及び統一流入量				
35. 1. 行為区域の概要				
36. 2. 使用論強度及び統一流入量				
37. 1. 行為区域の概要				
38. 2. 使用論強度及び統一流入量				
39. 1. 行為区域の概要				
40. 2. 使用論強度及び統一流入量				
41. 1. 行為区域の概要				
42. 2. 使用論強度及び統一流入量				
43. 1. 行為区域の概要				
44. 2. 使用論強度及び統一流入量				
45. 1. 行為区域の概要				
46. 2. 使用論強度及び統一流入量				
47. 1. 行為区域の概要				
48. 2. 使用論強度及び統一流入量				
49. 1. 行為区域の概要				
50. 2. 使用論強度及び統一流入量				
51. 1. 行為区域の概要				
52. 2. 使用論強度及び統一流入量				
53. 1. 行為区域の概要				
54. 2. 使用論強度及び統一流入量				
55. 1. 行為区域の概要				
56. 2. 使用論強度及び統一流入量				
57. 1. 行為区域の概要				
58. 2. 使用論強度及び統一流入量				
59. 1. 行為区域の概要				
60. 2. 使用論強度及び統一流入量				
61. 1. 行為区域の概要				
62. 2. 使用論強度及び統一流入量				
63. 1. 行為区域の概要				
64. 2. 使用論強度及び統一流入量				
65. 1. 行為区域の概要				
66. 2. 使用論強度及び統一流入量				
67. 1. 行為区域の概要				
68. 2. 使用論強度及び統一流入量				
69. 1. 行為区域の概要				
70. 2. 使用論強度及び統一流入量				
71. 1. 行為区域の概要				
72. 2. 使用論強度及び統一流入量				
73. 1. 行為区域の概要				
74. 2. 使用論強度及び統一流入量				
75. 1. 行為区域の概要				
76. 2. 使用論強度及び統一流入量				
77. 1. 行為区域の概要				
78. 2. 使用論強度及び統一流入量				
79. 1. 行為区域の概要				
80. 2. 使用論強度及び統一流入量				
81. 1. 行為区域の概要				
82. 2. 使用論強度及び統一流入量				
83. 1. 行為区域の概要				
84. 2. 使用論強度及び統一流入量				
85. 1. 行為区域の概要				
86. 2. 使用論強度及び統一流入量				
87. 1. 行為区域の概要				
88. 2. 使用論強度及び統一流入量				
89. 1. 行為区域の概要				
90. 2. 使用論強度及び統一流入量				
91. 1. 行為区域の概要				
92. 2. 使用論強度及び統一流入量				
93. 1. 行為区域の概要				
94. 2. 使用論強度及び統一流入量				
95. 1. 行為区域の概要				
96. 2. 使用論強度及び統一流入量				
97. 1. 行為区域の概要				
98. 2. 使用論強度及び統一流入量				
99. 1. 行為区域の概要				
100. 2. 使用論強度及び統一流入量				

集水区域 2 貯留施設のみ

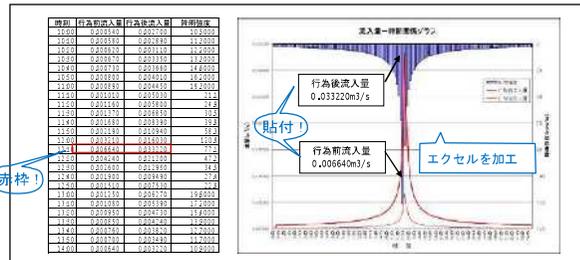


設計資料編  
第6章 システムを使用した設計例  
(4)-2 システム「流出計算」 ●田→池沼 990.00 m<sup>2</sup>の行為前後の放流量の算定。様式B作成

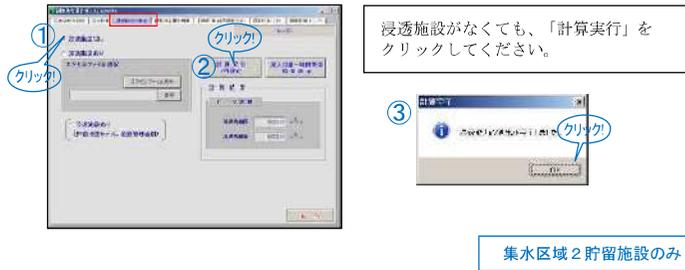


- ① 行為面積が合っているか確認
- ② 「参照」をクリック。
- ③ 阻害行為面積が500~1000m<sup>2</sup>は「kouf(ai chi 1-3)」。1000m<sup>2</sup>以上は「kouf(ai chi 1-10)」をクリック。「開く」をクリック。
- ④ 「kouf(ai chi 1-10)」を確認
- ⑤ 「計算実行」をクリック。
- ⑥ 「計算完了」が出たら「OK」をクリック。
- ⑦ 行為前、行為後の流入量を確認。集水区域が複数ある場合は、行為前ピーク流入量は「許容放流量」でなく目安。
- ⑧ 「流入量・時間関係」をクリック。エクセルファイルを加工し、様式Bを作成。

様式B  
(エリア②)  
調整池流入区域



(4)-3 システム「浸透能力の算出」 ●「浸透施設なし」をクリック。「計算実行」をクリック

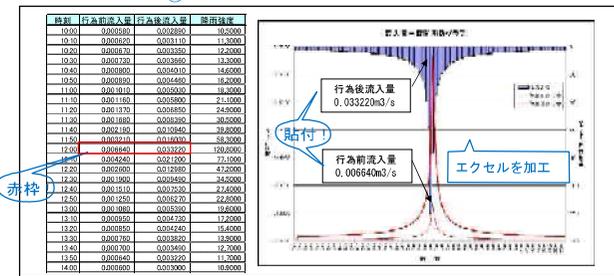


(4)-2 システム「流出計算」  
●田→池沼 990.00 m<sup>2</sup>の行為前後の放流量の算定。様式B作成



- ① 「01 流出計算(Q-T グラフ)」のタブを選択。
- ② 流出計算の実行に●が付いているか確認。
- ③ 行為面積を入力。
- ④ 流出係数をクリック
- ⑤ 計算実行をクリック。計算完了が出たら「OK」をクリック。
- ⑥ エクセルファイルを加工し、様式Bを作成。

様式B  
(エリア②)  
調整池流入区域



(4)-3 システム「浸透能力の算出」

●「浸透施設なし」をクリック。「計算実行」をクリック



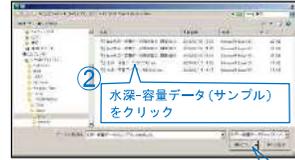
- ① 「01 流出計算(QT-S グラフ)」のタブを選択。
  - ② 浸透施設なしに●が付いているか確認。
  - ③ 計算実行をクリック。計算完了が出たら「OK」をクリック。
- 浸透施設がなくても、「計算実行」をクリックすること。

集水区域2貯留施設のみ

(4)-4システム「調節計算(自然調節方式)」

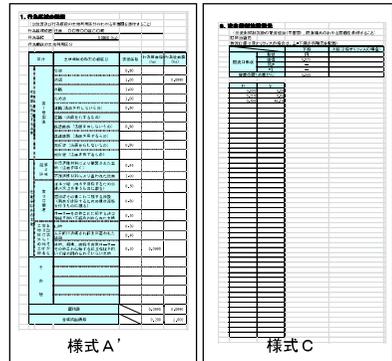


●調整池データを入力し、様式A' 様式Cと様式Dを作成



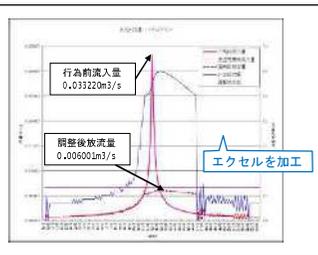
③ エクセルファイルに調整池の水深-容量データを入力。「H-V」フォルダに名前を付けて保存。

- 「エクセルファイル表示」をクリック。
- 「水深-容量データ(サンプル)」をクリック。「開く」をクリック。
- エクセルファイルに、オフィス管底高を池底として、数値入力。
- 「参照」をクリック。先ほど作ったエクセルファイルをクリック。「開く」をクリック。
- 口径の「円」をクリック。
- オフィスの直径をm単位で入力。
- オフィス管底が池底。0のまま。
- 「計算実行」をクリック
- 計算完了が出たら、OKをクリック。
- 「池の容量不足」「無」を確認。「有」ならば調整池を大きくする。
- 最大放流量+エリア①が許容放流量以下ならばOK。NGならばオフィスを小さくする。
- よければ「許可申請図書表示」をクリック。様式A' と様式Cを作成。
- 「流出量-時間関係」をクリック。エクセルファイルを加工。様式D作成。



様式 D  
(エリア②)  
調整池流入区域

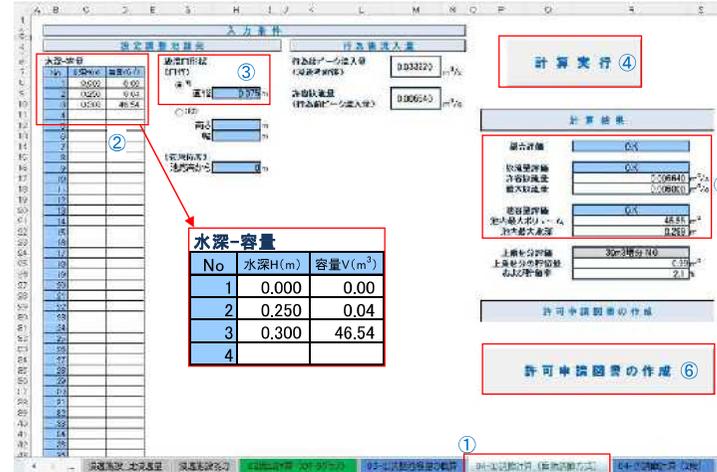
時刻	行先調整池流入量	調整池流入量	調整池流出量	調整池水位
10:00	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:01	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:02	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:03	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:04	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:05	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:06	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:07	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:08	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:09	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:10	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:11	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:12	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:13	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:14	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:15	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:16	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:17	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:18	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:19	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:20	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:21	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:22	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:23	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:24	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:25	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:26	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:27	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:28	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:29	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:30	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:31	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:32	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:33	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:34	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:35	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:36	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:37	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:38	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:39	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:40	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000



集水区域 2 貯留施設のみ

(4)-4 システム「調節計算(自然調節方式)」

●調整池データを入力し、様式A' 様式Cと様式Dを作成



水深-容量

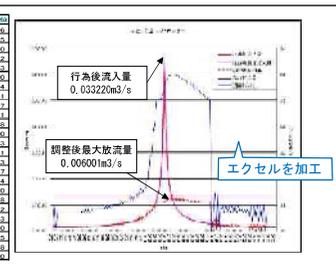
No	水深(m)	容量(m³)
1	0.000	0.00
2	0.250	0.04
3	0.300	46.54

- 「04-①調節計算(自然調節方式)」のタブを選択。
- 「水深-容量」のデータ入力。
- 放流口形状の「円」をクリック。オフィスの直径をm単位で入力。
- 「計算実行」をクリック。計算完了が出たら、OKをクリック。
- 総合評価、放流量評価、池容量評価を確認。「NG」ならば調整池を大きくする。最大放流量+エリア①が許容放流量以下ならばOK。NGならばオフィスを小さくする。
- よければ「許可申請図書表示」をクリック。様式A' と様式Cを作成。「04-①調節計算(自然調節方式)」の右側画面に計算結果の表とグラフがあるので、これらを加工して様式Dを作成する。



様式 D  
(エリア②)  
調整池流入区域

時刻	行先調整池流入量	調整池流入量	調整池流出量	調整池水位
10:00	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:01	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:02	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:03	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:04	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:05	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:06	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:07	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:08	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:09	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:10	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:11	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:12	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:13	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:14	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:15	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:16	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:17	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:18	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:19	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:20	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:21	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:22	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:23	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:24	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:25	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:26	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:27	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:28	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:29	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:30	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:31	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:32	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:33	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:34	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:35	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:36	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:37	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:38	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:39	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000
10:40	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000



集水区域 2 貯留施設のみ

(参考) システム「調節計算(自然調節方式)」について追加説明

「許容放流量以下」で池の容量不足「無」のとき「OK」を表示

下の「最大放流量」が左の許容放流量以下の場合、「許容放流量以下」、放流量以上の場合、「許容放流量以上」を表示

池が溢れる場合、容量不足「有」。容量が足りている場合容量不足「無」。※まずはここで「無」が表示されるように調整池形状を変更してください。

池の容量不足「無」の時は、オリフィスからの最大放流量を表示。池の容量不足「有」の時は「オリフィス+池から溢れた流量」の最大値を表示。

計算結果としての「最大水深」を表示。池の容量不足「有」の時は、左の諸元の最大水深が表示される。この例では、「0.300」

計算結果としての池の「最大容量」を表示。池の容量不足「有」の時は、左の諸元の最大容量が表示される。この例では、「46.54」

入れ物(調整池)の形状を入力するエリア

計算結果を自動表示するエリア

上の結果の模式図  
結果: OK

調整池諸元: 最大水深 0.300 m  
計算結果: 池内最大水深 0.299 m

計算結果: オリフィス最大放流量 0.006001m<sup>3</sup>/s

調整池諸元: 最大容量 45.64 m<sup>3</sup>  
計算結果: 池内最大容量 45.63 m<sup>3</sup>

オリフィスφ75

(参考) システム「調節計算(自然調節方式)」について追加説明

「放流量評価」が「OK」で「池容量評価」が「OK」のとき「OK」を表示

「最大放流量」が許容放流量以下の場合、「OK」。放流量以上の場合、「許容放流量以上」を表示

「池容量評価」が「OK」の時は、オリフィスからの最大放流量を表示。

池が溢れる場合、「調整池の容量不足」。容量が足りている場合「OK」。※まずはここで「OK」が表示されるように調整池形状を変更してください。

計算結果としての池の「最大容量」を表示。「調整池の容量不足」の時は、左の諸元が表示される。この例では、「45.55」

計算結果としての「最大水深」を表示。「調整池の容量不足」の時は、左の諸元の最大水深が表示される。この例では、「0.299」

入れ物(調整池)の形状を入力するエリア

計算結果を自動表示するエリア

上の結果の模式図  
結果: OK

調整池諸元: 最大水深 0.300 m  
計算結果: 池内最大水深 0.299 m

計算結果: オリフィス最大放流量 0.006000m<sup>3</sup>/s

調整池諸元: 最大容量 45.64 m<sup>3</sup>  
計算結果: 池内最大容量 45.55 m<sup>3</sup>

オリフィスφ75

オリフィスを小さくした場合(φ50)  
結果: NG 池容量不足「有」

調整池諸元: 最大水深 0.300 m  
計算結果: 池内最大水深 0.300 m

計算結果: 最大放流量  
=オリフィス+池から溢れた水  
=0.002745 m<sup>3</sup>/s+0.010155 m<sup>3</sup>/s  
=0.012900 m<sup>3</sup>/s

オリフィスφ50

調整池を小さくした場合(40.04m<sup>3</sup>)  
結果: NG 池容量不足「有」

調整池諸元: 最大水深 0.300 m  
計算結果: 池内最大水深 0.300 m

計算結果: 最大放流量  
=オリフィス+池から溢れた水  
=0.006035 m<sup>3</sup>/s+0.003453 m<sup>3</sup>/s  
=0.009488 m<sup>3</sup>/s

オリフィスφ75

集水区域2貯留施設のみ

オリフィスを小さくした場合(φ50)  
結果: NG 調整池の容量不足

調整池諸元: 最大水深 0.300 m  
計算結果: 池内最大水深 0.300 m  
調整池諸元: 池内ボリューム 46.53 m<sup>3</sup>  
計算結果: 池内最大ボリューム 50.71 m<sup>3</sup>  
(設計値+超過分容量)

計算結果: 最大放流量  
=0.002735 m<sup>3</sup>/s

オリフィスφ50

調整池を小さくした場合(40.64m<sup>3</sup>)  
結果: NG 池容量不足「有」

調整池諸元: 最大水深 0.300 m  
計算結果: 池内最大水深 0.300 m  
調整池諸元: 池内ボリューム 40.64 m<sup>3</sup>  
計算結果: 池内最大ボリューム 43.36 m<sup>3</sup>  
(設計値+超過分容量)

計算結果: 最大放流量  
=0.012990 m<sup>3</sup>/s

オリフィスφ75

集水区域2貯留施設のみ

(5) HPからダウンロードした様式Eの入力

「集水区域が1つ」の場合、または「集水区域は2つだが内1つが直接放流」の場合は、「様式E」により区域全体のチェックができます。

- 行為区域 1000.00m<sup>2</sup>  
雨水浸透阻害行為面積 1000.00m<sup>2</sup>
- 区域外流入なし
- 流出係数 行為前 0.200  
行為後 1.000
- 阻害行為面積 1000m<sup>2</sup> 以上  
基準降雨 1/10
- 行為前後のピーク流入量の計算結果を入力。
- エリア①直接放流区域 10.00m<sup>2</sup>
- エリア①流出係数：舗装 0.95
- エリア②流出係数：行為前 0.200  
行為後(舗装)1.000
- 新川流域又は境川流域を選択
- エリア②調整池の「水深-容量」表の値を入力
- エリア②オリフィス径入力
- 池底からオリフィス管底高通常 0.000 mを入力
- エリア②の計算結果最大放流量入力
- 計算結果。池内最大水深入力
- 計算結果。池内最大ボリューム(容量)入力

計算結果まとめ

エリア①(直接放流区域) 最大放流量  $Q_1 = 0.00032(m^3/s)$   
 エリア②(調整池流入区域) 最大放流量  $Q_2 = 0.00600(m^3/s)$   
 合計  $Q_1 + Q_2 = 0.00032(m^3/s) + 0.00600(m^3/s) = 0.00632(m^3/s)$   
 $\leq$  許容放流量  $0.00671(m^3/s)$   
**O. K**

集水区域2貯留施設のみ

(5) 愛知県のHPからダウンロードした様式Eの入力

「集水区域が1つ」の場合、または「集水区域は2つだが内1つが直接放流」の場合は、「様式E」により区域全体のチェックができます。

- 行為区域 1000.00m<sup>2</sup>  
雨水浸透阻害行為面積 1000.00m<sup>2</sup>
- 区域外流入なし
- 流出係数 行為前 0.200  
行為後 1.000
- 阻害行為面積 1000m<sup>2</sup> 以上  
基準降雨 1/10
- 行為前後のピーク流入量の計算結果を入力。
- エリア①直接放流区域 10.00m<sup>2</sup>
- エリア①流出係数：舗装 0.95
- エリア②流出係数：行為前 0.200  
行為後(舗装)1.000
- 新川流域又は境川流域を選択
- エリア②調整池の「水深-容量」表の値を入力
- エリア②オリフィス径入力
- 池底からオリフィス管底高通常 0.000 mを入力
- エリア②の計算結果最大放流量入力
- 計算結果。池内最大水深入力
- 計算結果。池内最大ボリューム(容量)入力

計算結果まとめ

エリア①(直接放流区域) 最大放流量  $Q_1 = 0.00032(m^3/s)$   
 エリア②(調整池流入区域) 最大放流量  $Q_2 = 0.00600(m^3/s)$   
 合計  $Q_1 + Q_2 = 0.00032(m^3/s) + 0.00600(m^3/s) = 0.00632(m^3/s)$   
 $\leq$  許容放流  $0.00664(m^3/s)$   
**O. K**

集水区域2貯留施設のみ